

環境保全と再資源化への提言誌

2

2026

月刊廃棄物

Monthly the Waste Vol.52 No.659

since 1975

■特集

戸別vs集積所 ごみ収集の効率化

■特別インタビュー 廃棄物対策の未来を考える 田中 勝氏に聞く

■連載 廃棄物・資源循環分野の2050を考える

■連載 いまさら聞けないビギナーのための廃棄物処理法



「環境×福祉」で連携協力、社会的地位向上へ

倉敷市 環境×福祉協議会

岡山県倉敷市で、環境関連事業者と福祉関連団体が相互に連携・協力しながら、地域社会への一層の貢献と社会的な地位の向上を目指す「倉敷市 環境×福祉協議会」が発足した。2025年11月には、発足に先駆けた「福祉×環境」交流会が市内で開かれ、廃棄物処理・リサイクル業者、生活支援や国際協力に取り組みNPO、行政から約30人が参加して活発な意見を交わした。

協議会の立ち上げには、市内でリユースショップ「リユースマン」を運営する(有)ウイルパワー代表の江川健次郎氏が发起人となり、市内で環境または福祉に取り組み事業者や団体に参加を呼び掛けた。江川氏は、環境関連事業者と福祉団体が、生活困窮者への不用品提供やリサイクル資源を活用した寄付、あるいは障がい者・高齢者雇用等の関連した取り組みを行うなど相性がよい点に着目。エッセンシャルワーカーでありながら社会的な認知度が低いなど共通の課題もあ

る中で、両者が連携することで新たな価値を創出できると判断した。協議会の事務局は岡山NPOセンターに設置され、福祉側の窓口を倉敷社会福祉協議会、環境側の窓口を倉敷一般廃棄物収集運搬業連絡協議会が務めることになった。

交流会で双方の課題抽出、情報共有

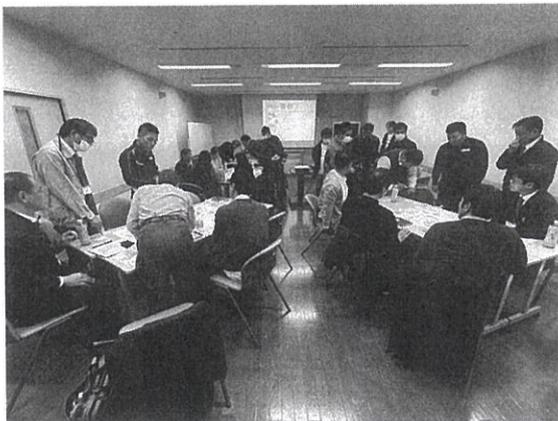
交流会では、グループディスカッションのかたちで福祉団体側と環境事業者側の双方から課題を抽出。福祉団体側が障がい者一般雇用の受け入れ先や就労継続支援B型事業所の不足、支援物資の調達といった課題を抱える一方で、環境事業者側も社員の高齢化が進み、若い人材の採用が年々困難となるなかで運搬車両のドライバーや廃棄物・資源物の仕分けなどに要する人手不足が深刻な課題となっている現状が浮き彫りになった。

こうした各々の課題に対して、環境事業者によるリユース品や食品ロス食材の供給体制、あるいは福祉団体と支援対象

者が提供できるスキルなどの情報を共有しながら、連携協働の可能性を模索していった。今後さらに会合を重ねる中で、協議会としての具体的な活動内容を検討していくという。

交流会には、倉敷市役所から資源循環推進課と福祉支援課の各担当者がオブザーバーとして参加。資源循環推進課の担当者は「環境と福祉のそれぞれの分野で直面する問題を、相互に連携協力しながら解決しようとする取り組みは意義深く、今後の活動に期待したい。情報提供などの面で市も協力していく」と語っている。 **W**

(本誌・新倉)



グループディスカッションで課題を抽出